

現代の安全保障環境が大きく変化する中で、学生たちの外交・安全保障への関心も高まっています。当研究会では、約20名の学生が多角的なアプローチにより研究を進めています。

国際安全保障の概念構築と実践を学ぶ

総合政策学部にて赴任してはや8年になりますが、この期間にも世界をとりまく安全保障状況は大きく変化しました。赴任当初は、9・11テロの衝撃と国際テロリズムの脅威、引き続きアフガニスタン・イラク戦争などが国際関係の焦点でした。今日では中国の台頭や北朝鮮問題の不安定化といった北東アジア情勢の深刻化や、海洋・サイバー・宇宙空間などの領域に対する挑戦など、新たな問題が浮上してきました。私たちの研究会では、現代の国際安全保障をめぐる諸問題に対し、概念枠組みの検討と政策志向型のアプローチの双方から研究を続けています。研究会に参加する学生は、各自の研究テーマの共通性によって1カ月程度のグループワーク（共同研究）を行います。本年度春学期には「米国の東アジアへのリバランス」「インド国内のテロリズム」「アラブの春とリビア政変」「ソマリア内戦と平和構築」といったテーマで研究発表が行われました。

現代の国際的危機を想定した「クライシス・シミュレーション」の実施です。学生たちは、各国の首脳や大臣などの役割を担い、国際交渉などを通じて問題への対処方法を学びます。昨学期は「イラン核危機」をテーマに、イラン・米中・イスラエル・ロシア・EU・中国チームを構成し4時間にわたるシミュレーションを実施しました。さらに学期末まで、各自の研究計画に基づく期末レポートや卒業論文の執筆と格闘することになります。

最近の傾向としては、日本人学生に加えて留学生や外国人（アジア・中東・欧州など）の親を持つ学生が増え、研究会の国際性が豊かになりました。同時に世界をとりまく問題への距離感が、研究会の友人たちを通じて顕著に縮まっていますという印象があります。国際安全保障は国益や人の命を扱う問題領域であるからこそ、リアリティを重視し、真摯に研究を続けていきたいと思っています。



今、「国際安全保障」を学ぶということ

まつだ なおゆき
松田直行君 環境情報学部4年

私たち神保研究会では、個人研究、グループワークを軸に、安全保障について理解を深めています。個人が自由に研究領域を選定するため、地域紛争や二国間関係、核、テロなどテーマは多岐にわたります。研究会の大きな活動のひとつが学期前半のグループワークです。学校に泊まり込むことも珍しくなく、かなりハードですが、終わった時の達成感はとても大きいものです。

安全保障の概念は時代とともに変わっていきます。しかし、研究会で培ったものは決して揺らぐことはないと考えています。10年先、20年先、世界が変わっていく中で、その世界をしっかりと見つめられる人、それが私の理想です。

有機合成×バイオで、薬を創る・造る

須貝 威

薬学部 教授

私たちが有機薬化学講座は、人の命と生活を救う薬を創製する人材を育成する場であり、有機合成とバイオテクノロジーを極めグローバルな飛躍を目指す若者の集団です。

私たちは(1)体内で生命活動を担っている酵素を微生物に作らせ、触媒として薬の合成に応用、さらにハイブリッド人工酵素を創製すること、(2)抗がん、抗パーキンソン作用などを持つ天然物を、ドミノ環化という独自の手法で効率よく合成すること、(3)糖類から出発して抗インフルエンザ薬などを合成する環境・資源に優しい研究、をテーマの三本柱にしています。須貝(農学系)、庄司(理学系)、花屋(薬学系)と、出身も得意分野も異なるスタッフが、お互い学びながら教えあっています。かつて、理工学部化学科の土橋源一先生が目指された「学際的に広い分野で活躍する化学の創製」の精神を受け継ぎ、内外から学生や研究者をどんどん受け入れ、隣人から新しい気づきをもらう機会も大切にしています。東日本大震災の折には、東北大学の大学院生に長期間滞在していただき、同じ実験室で互いに切磋琢磨しながら研究に励みました。

研究室所属の学生・院生には、学生実験(実習)のTAなどとして、後進

の指導にあたらせています。後輩に対し責任をもって教えることを通じ、実験実習の真の意味を高学年になってはじめて理解します。学生たちの研究能力向上へのフィードバックに、着実に貢献しています。

また、国内外の学会で積極的に発表させています。発表は、さまざまなお客さんとのコミュニケーションを深めるための社会人トレーニングでもあると考えています。学生たちは、発表に不可欠な英語に関して、論理的文章を対象に日々勉強しています。さらに、就職支援活動にも力を入れており、ESや研究概要の添削などを通じ、説得力が高い文章を作れるよう修養しています。卒業生は薬剤師、研究・開発職、技術営業(MR)、IT、広告など、多彩な分野で活躍しています。メンバーには、トップクラスの成績というよりは超低空飛行を経験してきた強者も多いですが、一歩前進するたび、階段を一段上るような意欲をもって、毎年新人が配属を希望してきます。

どんどん研究生活が楽しくなる

おかざきはやと

岡崎隼人君 薬学研究科前期博士課程1年

「毎日9時半から終電まで馬車馬のように働かされるぞ」と、根も葉もない噂が飛び、抽選で第一希望を外れ、配属されてきた人は悲痛の叫び……それが有機薬化学講座なのでしょうか？確かに「厳しい」のは本当ですが、「やらされて」いる人は一人もいません。メンバー全員、研究(有機合成)が大好きになっていきます。実験に集中しすぎて、気が付いたら終電の時間だったこともありました。さまざまなイベントにも本気で取り組みます。スパゲッティやオムライスなどは数キロ食べることが当たり前で精神的、肉体的にも鍛えられます。塾長杯水上運動会にも毎年挑戦してきました。本気で学べ、本気で楽しめる……それが有機薬化学講座です。

